



# ひろがり

No17

左：初夏の母校写真  
撮影（銀河スタジオ）

発行日：2018. 7. 21  
発行者：佐高在仙同窓会広報誌委員会

## 「同窓の絆再認識と伝統の継承」

佐沼高校在仙同窓会会長 羽生 正弘



この度、浅学非才の私が一世紀を越える歴史と伝統ある母校の在仙同窓会第六代会長を仰せつかりました。

これまで縁あつて同窓会活動に参加させて頂き、歴代会長を始め母校先生方、多くの諸先輩並びに後輩諸君と席を同じくさせて頂きましたことは、望外の幸せであります。

もとより同窓会は、縁あつて共に母校の学び舎で育った者同士が、時代を共有しながら連帯の絆を深めて成長する活動であります。

歴代会長の偉業を紐解くと、初代阿部会長（旧制中二十六回生）は、同窓会活動の理念を「友愛と団結、奉仕は報われる」と記しておられます。偉大な諸先輩方が幾多の確かな足跡を残されて今日があることを、脳裏に焼き付けながら、会員皆様のご支援のもと職責を果たしたいと思う次第です。

近年では、あの東日本大震災復興支援として、同窓の絆をより強くとして発刊された「機関誌ひろがり」、そして我が同窓会創立三十周年記念拠金を実施し、母校に防災備品を贈呈した志は、これからも引

き継いで行くことであると思っています。

今日の社会経済は、世界的にも第四次産業革命と称され、あらゆる産業、企業が変革を余儀なくされています。

こうした中、これからの社会の主役として母校を巣立つ後輩諸君が、在仙同窓会の絆を活用して頂き、豊かな未来に挑戦するよう念願するものです。

そのためには同窓の絆を再認識願ひ、会のさらなる発展、特に若手同窓生皆様の総会への参加、折に触れた情報交流、同窓の絆づくりに元氣な行動力を期待するとともに、一層のご協力をお願い申し上げる次第です。

結びに会員皆様の益々のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます。

## 「魅力ある学校づくり」を求めて

佐沼高校校長 茂木 好光



在仙同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に様々な形でご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

申し上げます。

私は以前に三年間本校教頭として勤務し、四月に第三十五代校長となりました茂木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

全日制の本校生徒は、昨年宮城県で同時開催されました南東北インターハイ（宮城・

福島・山形の合同開催）と全国総合文化祭（みやぎ総文二〇一七）に、ボート部と陸上競技部、箏曲部と美術部が出場しました。

今年は、ボート部男子ダブルスカルと陸上競技部男子棒高跳びが東北大会に出場しました。

進学では、この三月の卒業生が、国公立四十名、私立四年生大学二百十三名、短大十七名、専門学校等六十二名、公務員十名、民間四名の合格の実績を残しました。

本校生徒は、校是「文武両道」を胸に、日々の学校生活に自分自身の志を達成すべく真摯に取り組んでいます。

定時制では、昭和四十三年に結成されたETA（事業主と教師の会）が五十周年を迎え、記念事業を開催します。

「働きながら学ぶ生徒」の支援を地域の皆様方と連携し推進していきます。

県北地区では少子化による定員の確保が課題ですが、「魅力ある学校づくり」をお一層推進していきます。

また、様々な活動を通して、リーダーシップを発揮し、社会に貢献できる人間性豊かな人物を育成していきたいと教職員一丸となつて取り組んで参ります。

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



# 副会長登場

「佐高出身者の絆」

在仙同窓会副会長(高二十七回生)

五十嵐 信



会員の皆さん  
には、各方面で  
ご活躍のご様

子大変わうれしく思っております。

さて、今回は私が勤めております七十  
七銀行の母校同窓会について紹介させ  
ていただきます。

「七十七銀行佐高会」は、平成元年に  
設立され、現在の会員数は四十六名、う  
ち男性が三十名、女性は十六名でありま  
す。会長は設立時より丸森伸吾先輩に永  
く務めていただきましたが、平成二十一  
年から私が引き継ぎ、今年で節目の三十  
周年を迎えました。

会の活動は例年二月に松島に一泊し  
て総会および懇親会、五月にはゴルフコ  
ンペを開催しています。また、銀行OB  
と現役の役席者以上の集まりとして、  
「七十七銀行鹿城会」(現会長は丸森先  
輩)があり、こちらは年一回秋口に懇親  
会を開催し旧交を温めております。

ふたつとも、それぞれ所属、年齢、役  
職などバラエティに富んでおりますが、

同じ故郷で育ち、学び舎をともしした者  
同士、和気あいあい楽しい会になってお  
ります。また、こうした会を通して、職  
場では入手できない情報交換や仕事上  
の悩みごとなどもザックバランに相談  
ができて、自身のキャリアアップにもつ  
ながる大変有意義な場でもあります。

さて、現在、母校在仙同窓会の登録者  
数は六百五十余名、総会への参加者数は  
毎年百名前後にとどまっております。

まだまだ在仙同窓会を知らない同窓  
生もたくさんおりますので、広く周知し  
多くの同窓生が集い絆を深めながら、  
各々にとって何かしら意義のある会と  
なるよう、微力ですが貢献してまいりた  
いと考えております。

## 母・校・通・信

「振え 佐高の我が選手」

佐沼高校同窓会事務局

(高三十回生) 片平 保裕

在仙同窓会の皆様には日頃より母校  
に温かいご声援をいただき、誠にありが  
とうございます。

今年度の佐高生は、生徒会執行部・応  
援団幹部のリードのもと、より一層の一  
体感をもって高校生活に前向きに取り  
組んでおります。題にも示しましたが、

懐かしの「佐高第一応援歌」が復活しま  
した。新入生の初期指導や選手をおくり  
出す場面で生徒らにより愛唱されてお  
ります。また、校舎の廊下壁面には、「文  
も100% 武も100%」の標語が貼  
られ、生徒は授業や朝学習、部活動に意  
欲的に取り組んでおります。

さて、六月上旬に行われました県総体  
で、上位進出した生徒や文化部の活動で  
優秀な成績を収めた生徒がおりますの  
でご紹介いたします。

末筆になりますが、在仙同窓会の益々  
の発展をお祈りします。

### 陸上競技部

小泉宗士(一年) 男子棒高跳び

第二位(東北大会出場)

渡邊 廉(一年) 男子棒高跳び

第四位(東北大会出場)

### 女子ハンドボール部

第三位

### ボート部

高橋聖・但木大介 男子ダブルスカル

第三位(東北大会出場)

女子総合

第三位

### 美術部

伊東雪奈 宮城県高校美術展 優秀賞

作品名『日常』

(全国高等学校総合文化祭出品決定)



伊東雪奈さん『日常』



ボート部 男子ダブルスカル  
高橋聖君・但木大介君



男子棒高跳び  
小泉宗士君

撮影：銀河スタジオ



## 旧制中学校当時、新制高校

発足時を振り返って（要旨）

高三回生 渡邊信裕

佐沼高等学校を創立して六十七年、「光陰矢の如し」の感がある。さて、ここに在校時のことを幾つかしたためさせていただく次第である。

我々は昭和二十年（一九四五年）四月七日宮城県立佐沼中学校（旧制）の入学式に参列した。戦時下であり、当年度から中等学校は五年制から四年制に短縮、一学級増設され新入生は二百人。学校の正門を入ると左側に石造りの奉安殿があった。そこで脱帽し、最敬礼した。天皇・皇后両陛下の御真影、教育勅語、大東亜戦争の詔勅が納められていた。

最上級先輩四年生は、前年から宮城県多賀城町（現在多賀城市）の海軍工廠へ学徒動員されていた。五月になるとさらに、三年生の先輩が加美郡色麻村王城寺原へ勤労義勇隊として動員され、飛行場の建設、食糧増産にあたった。前年昭和十九年の台風で北上川が増水し、錦織村（現在東和町）の堤防が決壊した。その復旧作業に学校へ動員要請があり、在校生は資材、石や土を運搬する土木作業に従事した。また、米谷―志津川・本吉街道「水界峠」の山林へ向き、薪炭作業にもあたった。六月の田植え時に入ると、出征兵士農家へ援

農奉仕に派遣された。さらに、学校の校庭が掘り起こされ、畠に変えられた。

七月十日未明、仙台市街が空襲を受け、多数の被害、犠牲者が出た。地元登米郡にもグラマンが飛来し、米谷村の北上川鉄橋にロケット弾を投下、機銃掃射された。

八月十五日（水）、北方村（現在迫町）立戸の椎木林開墾作業に携わっていた在校生に、「開墾作業を中断して集合せよ」と指令が来た。近所の農家の庭で、正午の時報とともに最敬礼を命じられ、玉音放送を聞かされた。しかし、ラジオの雑音にかき消され、放送内容は聞き取れなかった。翌十六日朝早く学校から指令が来て登校した。講堂に職員・生徒が集合し、八日に赴任してきたばかりの佐竹直義校長（第十三代）が、大日本帝国が無条件降伏を受け入れたと訓示、目から涙がこぼれ頬を伝わり流れ落ちた。我が国の敗戦を認識した次第だった。

日本に進駐した連合軍司令部（GHQ）により、「軍国主義」の一扫が図られた。学校から全校生徒に次の内容が示された。  
①挙手敬礼の廃止②ゲートル着用自由  
③朝礼の廃止④始業時の起立・敬礼・着席の号令廃止⑤修身・地理・歴史教科書の焼却⑥剣道具・柔道着の焼却処分⑦グライダ―の分解・焼却処分。このような動きの中で、学校では戦時体制下での書類・図書なども処分していた。地方にあつて空襲の被害を免れ、学校の歴史にとつて貴重な「学校日誌」・資料なども小使室の湯沸炉

に投げ込まれ灰となった。

戦後教育内容の改定により、教科書が全面的に変えられた。物資不足のため、新しい教科書は新聞紙を使って印刷された。新聞版のサイズで刷られたまま販売されたので、新聞版の本をページがなくなるように折り畳んで切り分け、千枚通しで穴をあけ、紙縫り締めして冊子にした。

昭和二十一年、全国中学校野球大会が復興し、七月に宮城県大会が仙台市の評定河原球場で行われた。我が佐沼中学校も出場した。本校は遊佐司朗投手、谷関一郎バッテリーら打撃陣が奮闘した。一回戦は東北学院中学と対戦、二回戦は強敵・仙台育英中学を撃破、3回戦は塩釜中学と対戦、準決勝は仙台工業と対戦し、連戦連勝して決勝まで突き進んでしまった。予想しなかった出来事だった。連勝により、仙台での宿泊日数が延びるにつれ、学校では選手や付添い教職員への食糧供給に追われた。在校生や農家の父兄から集まったコメ・味噌・野菜をリュックサックにつめこみ、応援団諸君が背負って何度も大会会場へ駆けつけた。

決勝戦は仙台二中との対決となった。本校先攻で試合開始、3―10で敗退したが、準優勝の栄誉に輝いた。

昭和二十二年（一九四七年）三月三十一日教育基本法が公布された。この基本法と同時に公布された「学校教育法」で、「小学校」「新制中学校」「高等学校」「大学校」のいわゆる六・三・三・四制が発足した。

新制高等学校は、昭和二十三年四月から設置された。新制高校発足六十四校中、佐沼・登米・大河原・黒川農業のわずか四校のみが男女共学を実施、テスト校として注目を集めた。

昭和二十三年四月、新制佐沼高にふさわしい校章が制定された。図案中心の二重丸◎に校訓の「至誠」を象徴させ、さらに周囲三枚のプラタナスの葉に「献身・窮理・力行」の三徳を表現させている。この図案は在職中の加藤友介先生の作品である。歴史（日本史）担当教諭であつたが、美術にも造詣が深かった。

我々は戦時の昭和二十年四月に旧制中学校に入学し、終戦を経験し、戦後の学制改革で併設佐沼中学校に、そして新制高等学校へ進学した。この間六年、振り返れば怒涛の時代、蛍雪の効を懐かしくもあの木造校舎で過ごしたのである。



高三回生

富士原宏至さん

渡邊 信裕さん

丸森 伸吾さん

遊佐 秀行さん



6月3日、今年の総会幹事、29回生の4人が集まり、近況報告、卒業アルバムをめくりながら、高校時代の思い出を語り、今年の総会への参加を呼び掛けていただいた。(敬称略)

# 集まれ

## 29回生!

今年の在仙同窓会総会  
9月8日(土)開催



29回生、待っています!

自己紹介と近況報告をお願いします

(渡邊政明)

生まれは関東圏ですが、中学3年から登米中学校です。卒業後は大学に入ろうと思っていたのですが、受験に2度も失敗して、宮城県警にお世

総務部にいます。

(佐々木俊之)

私も出身は登米町です。政明君とは中学3年から一緒です。私も卒業してから色々あり、大学は目指していたのですが、とりあえず自衛隊に2年間、その後に東北学院大に入り、卒業してそのまま職場になりました。大学職員として働いています。かれこれ、35、36年ですね。

(小室友子)

ご沙汰しております。出身は東和町米川です。卒業して、仙台で1年浪人、東京の大学を卒業して、同級生(工藤公德)と結婚、主人の転勤で19年位前に仙台に。居を構えまして現在に至っております。今日は、主人もお伺いしたいところでしたが、私が代表で参りました、よろしくお願い致します。

(主)人は、高校の時から決まっていたのですか?)

高校の時は、同じクラスでしたが、野球部だったので、朝いない、昼いない、夕方いないという状況でした。東京で、一浪して大学に入った年の9月ごろ、「東京にいる人で集まろう!」と、同期会が

(佐藤かほる・旧姓星)

私は佐沼中学校出身です。ずっと、佐沼を出るつもりもなくいたのですが、就職して仙台に出て来ました。この佐高会には参加したこともなく、存在も知りませんでした。いずれ佐沼に帰れると思っていたのですが、震災のちよつと前に、母が体調を崩し、佐沼の自宅を引き上げ、向陽台で同居することになりました。結婚前からヨガの教室に行っていたのですが、今は、太極拳の指導の手伝いをさせてもらっています。ちよつと前、指導員の資格試験に落ちて傷心です。母が急に亡くなり、父がそのショックで急に痴呆がきまして、その父と、日々、格闘しながら、太極拳で息抜きしつつ今に至っております。



佐藤かほるさん

同窓生とお会いすることはあります

(佐々木) この前、出張で札

いました。経営コンサルタントをしています。彼は「消息通」で、誰が何をやっているかよく知っている。こんな時、札幌にいるのが惜しい。

(渡邊)

男は部活の人とは付き合いがあるけど、それ以外の人はなかなか付き合いがなくて。仙台の人よりは、どちらかというと在郷、佐沼にいる人の方が活発で、年に1回、2月の第3土曜日を定例にして、今年もやっている。

私は都合で行けなかったのですが。職場では、石原智子(旧姓・菊地)が行っています。彼女とは、今日の件でも連絡を取り合っています。県警のママポリスで活躍しています。(小室) 智子さんは、全国区になりましたね。

(渡邊)

今回も来たい、来たいと、言っていたのですが、仕事で東京に行きました。

女性の皆さんはどうですか? お会いする機会は?

(佐藤)

過去に、1年の1組と2組で集まったことが2回位あった。生物と地学に選択科目が分かれていて。地学の1組担任の竹川先生のもと、仙台で女子だけ集まり、

仲良しだった。「また来年もやりたい!」と言っていたんだけど、なかなか開催できずにいました。

仙台で定期的に会う機会は

(渡邊) 全くないですね。私は、県警の中に佐高会があるので、そちらでは嫌でも会いますが。(小室) ところで、私達の学年で、警察官になられた方って多いんですか?

(渡邊)

(数えて見ると) 宮城県警では4人位、多いのかな。360人の5人だから、大したパーセンテージではないかな。ただ、間違いなく、佐高の4つの校訓、「至誠・「献身・「窮理・「力行」は、我が職場に合うんですよ、ピットリと! だから多いのかなあ。高校時代には意識したことも無かった。改めて思うと、イイですね。



渡邊政明さん

部活の活躍や勉強など高校時代の思い出は



年3〜4回発行していました。今もありますね。帰宅部とも言われていました。

(渡邊) 私は、柔道部。

(佐藤) 私は、体操部。

(渡邊) 野球、柔道も、優勝できると噂されていてダメでした。期待に応えられない、そういう年回りなんですよ。

(小室) 野球部の3年生は3人しかいなかった。高橋君と五十嵐君と、うちの主人と。「俺は佐々木投手(東北高)からヒット打った」と主人が自慢していますけど。

\*高体連は、渡邊さん、佐藤さんは、試合よりも、夜を徹しての「反省会」の思いの出の方が鮮明のようです。

去年の先輩の座談会で、「修学旅行が来年から中止!」という話がありました。

(渡邊) ちゃんと、行きましただよ、京都に。

(小室) ただ、列車で、他の高校の人が来ても絶対声をかけるな、と言われました。

(渡邊・佐々木) そうですね、京都の町中で何かあったとか。野ゆう子」と会って写真を撮った。大阪か京都あたりで、

デッキに出て写真撮って、

(佐々木) それは、初耳です。

A班とB班があったから、日程が分かれていたからね。

### 佐高祭の思い出は

(渡邊) クラス対抗?陸上、バスケ、水泳と3つに分かれて。3年の時に力を入れて、「応援歌を作れ!」とか、やんなかったっけ?



佐々木俊之さん

(佐々木) 盛り上がったね。

(佐藤) クラスで、くじ引きで男女ペアになって、第2グラウンドまで走って行ったような...

(小室) 佐高祭で、「亀川君」

がすごく活躍して、目立った。次の日、英語の佐竹先生の時間に亀川君がいなくて、「亀川君の、あの活躍を考えると、今日ここにいないのはどうしてですか?」という話になって、「彼は、出身はどこですか?」「南方です!」と言ったら、「南方の橋を渡ったら右ですか左ですか?・・・わか

りました。じゃ、自習をしていて下さい」と言って、先生が探しに行った。帰って来たら、「寝ていました」と。「わあ、行って来たんだ!」、スゴイと。

(渡邊) 佐竹先生は、ブレザーが主体だったけど、どんな服装の時も、靴下はいつも白。アグネスチャンの「白い靴下は・・・」という歌、あれは佐竹先生の歌だつて、皆で言っていた。

### 学業の方は

(渡邊) 現役で東北大に8人だか9人合格したのは、何年振りとかとか言われなかったっけ?

(佐々木) 言われた。優秀だったね。当時は優秀な学年だった。古川と佐沼と同じレベルと言われたね。

(渡邊) それから、我々の時代はどちらかと言うと東京志向が強い人がいっぱいいた。

(佐々木) あこがれ、漠然としたあこがれ・・・その頃、フォークソングとか流行った時代で、東京に行くとか何かいいことがあるようなイメージが膨らんで。とりあえず東京に行きたいと思って。私は、そのまま行けずじまいだった

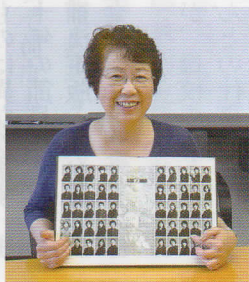
けど。仙台よりは東京に行きたいという感じではいた。「かぐや姫」とかの影響があったのかなあ、「神田川」とか! (全員) そうそう!

(小室) 早稲田まで歩いて行く時、ここが、「神田川?」。見て、がっかり。街中にある川なので、周りはコンクリートブロック。えっ、これって。

### 「卒業アルバム」をめくりながら

(渡邊) 卒業写真は好き勝手な自由なポーズで撮ろうということになった!

(小室) 柔道着とかフェンシングの白で貴公子みたいに!



小室友子さん

(佐藤) 撮影の時期、早かったんだよね。

(渡邊) 皆、髪も長かったな。

ところで今年の同窓会幹事ですが (渡邊) それはこれから検討させていただきます。同期の

熊谷達也さんも参加、講演をお願いしていますので、これをネタに広く集めて行きます。

男性はこの年になるまで仕事のみで外との結びつきはあまり考えなかったかもしれせん。これから、60を過ぎると外との結びつきの方が大事になるので、なるべく多くの人に声をかけて集めたいと思っています。女性は仙台に嫁いでいる人たくさんいるよね! (そんなことない?) 菊地智子(旧姓)さんのネットワークがすごいから、お願いしよう。

(佐藤) あの人、古いことも憶えていて、切りとれる。

(小室) 私が、今この座談会にいるのも菊地の力です、米川に帰っている時に、誘いの電話をもらいました。

(渡邊) いつもは男性中心の同窓会だけど、共学になっているんだから、半々が弾むと良いです。在仙佐高会に在郷の人は呼べるのですか?

(事務局) 一応、広い意味での仙台です。オープンです。でこの機会に皆に声をかけて下さい。今日はお忙しいところありますがございました。多くの同期の皆様の参加をお持ちしております。



## 各界で活躍する在仙同窓生

出版社荒蝦夷取締役 『仙台学』編集長

千葉 由香さん (高三十四回生)

『仙台学』という雑誌をご存知の方も多いと思います。今回は、仙台の出版社「荒蝦夷」で発行する『仙台学』の編集長・千葉由香さんに登場して頂きました。聞き手・高橋広報誌委員長

(高橋)

今年一月にカストリ出版から刊行された千葉さんの著書『みちのく仙台常盤町小田原遊廓随想録』を読ませていただきました。「あの町の深い歴史を実感した」という感想です。まず、このようなテーマに取り組まれたのはなぜですか？



毎日多忙な

千葉由香さんに

5月22日インタビュー

(千葉)

遊廓とは終戦直後まで全国各地に存在した合法的な管理売買春エリアです。「常盤町」と呼ばれた仙台小田原遊廓は東北一の規模でしたが、それを正面から取り扱った読み物はあまりありませんでした。二〇〇〇年に民俗学者の赤坂憲雄さんが責任編集を務める『別冊東北学』(東北芸工大/作品社)の創刊に編集者として関わったのですが、ちょうど冊子『お宮町』(青葉区地区元学研究委員会)に掲載され

た遊廓の盆踊りの写真が気になっていったことから、その奥にある遊廓の日常を探ってみたいと思いました。たまたま私自身が遊廓のそばに住んだことがあったのもきっかけの一つです。調べ始めると汲めども尽きない興味がわき、合計八回、四年間にわたって連載しました。

(高橋)

連載当時、多くの人から取材をされていますが、ご苦労されたことは？

(千葉)

地域を語る上で欠かせない要素でありながら、地元ではそれに触れられたくないという方も少なくないので、取材対象者を探すのに苦しみましたね。『お宮町』制作時も遊廓を取り上げるか否かの議論の末に、「こんな女の人たちがいたという歴史をきちんと記すべきだ」という結論に達したそうです。ならばそれを受け、深く掘って書き残すのは私たち世代がなすべきこと。公娼制度関連の文献資料に目を通す一方で、あれこれと伝手をたどってお会いした方から、生き生きとした証言を引き出すことができました。

(高橋)

この本ではその時代を生きた女性を描かれています。読者へのメッセージをお聞きます。

(千葉)

遊廓は登米にもありましたし、現在を生きる私たちと地続きです。この本は学術書でもルポルタージュでもない、古い資料や生の声を盛り込みながら町の歴史や人の暮らしをつづった思い入れの強いエッセーです。偏見や先入観を持たずに読んでいただければと思います。書店でよく売れているのはうれしいかぎりです。

(高橋)

出版社荒蝦夷の活動について教えてください。

(千葉)

東日本大震災後は東北学院大学発行『震災学』や同大学地域共生推進機構の連続講座を集成した『震災と文学講義録』の編集制作など、震災関連の出版を多く手がけました。震災については東京から取材で来た人に見えるものと仙台に暮らす私たちに見えるものは異なります。また、戊辰戦争百五十周年の節目にあたる今年の最新刊は『増補決定版 仙台藩の戊辰戦争』(木村紀夫著)です。

(高橋)

話は変わりますが、母校の生んだ直木賞作家熊谷達也さんとの仕事の関係は？

(千葉)

『別冊東北学』への執筆を依頼するためにお会いしたのが最初です。お話をしてみると私の兄とは佐高時代クラスメートだったと判明。『邂逅の森』で直木賞を受賞されてからは講演依頼が激増し、私たちがマネジメントを担うことになりました。出版社名は『別冊東北学』に連載された小説『荒蝦夷』からいただきました。高校の先輩が上質な作品を執筆し続けていることにとても励まされますし、ものの方や考え方が研ぎ澄まされた熊谷さんからはいつも刺激を受けています。

(高橋)

高校時代はどんな生徒でしたか？同級生や同窓生とお会いする機会は？

(千葉)

高校時代は友人に誘われて剣道部に入ったものの、いかに稽古をさぼるかばかり考えていました。部活をやめようと思

っていたある日、担任の千葉節子先生に「剣道と出会ったことは一つのチャンス。今やめるなんてもったいない」と言われて思い直し、部に留まって二段を取りました。でも十年振りに先生にお会いしたときその話をしたら、「私そんなこと言った？」と、まったく覚えておられませんでした(笑)。剣道部の仲間とは年に一度ランチ会をしています。ほかに、ときどきご飯を食べ、一緒に音楽を聴きに行ったりハイキングに行ったりする友達もいます。会う頻度はそう多くありませんが、とても大切な存在です。

(高橋)

最後に、在校生に一言お願いします。

(千葉)

月並みですが常に好奇心を抱き、喰らいついたら放さないくらいの粘り強さを持つて。本をたくさん読むこともお勧めします。若いときにしかできない読書体験もあるし、それが心の栄養や支えになるときがきつと来ます。校訓の「至誠・献身・窮理・力行」は折に触れてよく思い出します。旧制中学風の硬派な文言ですが、とても味のある深い言葉だなと思うようになりました。

(高橋)

今日はお忙しいところありがとうございます。同窓生の皆さん、ぜひ『小田原遊廓随想録』を一通下さい。



『みちのく仙台常盤町 小田原遊廓随想録』



# 各界で活躍する在仙同窓生

「民間放送」から「大学」へ

仙台大学教授 文学士

(高二十五回生) 佐々木 鉄男



昨年十一月の六十  
二歳の誕生日をも  
つて、三十八年八か  
月間勤めた仙台放  
送を退職し、旅とゴ  
ルフと、美術史の聴  
講生として川内の

キャンパスライフを楽しんでいました。

ところがその年の暮れに、新聞社OBの  
仙台大学教授から誘いを受け、悩んだ末  
に無謀にも翌年の四月から教壇に立つこ  
とになりました。

しかし、そこで待ち受けていたのは大学  
教授への華麗なる転身などではなく、中  
学・高校の先生と何ら変わらない(?)過  
酷な教員生活でした。メディア関係の授業  
以外にも、海外生活の経験を基に英語の  
必要性を教える授業、一般教養、クラス担  
任、某野球部の部長、教務委員会、教養教  
育のあり方の検討会、受験生を集めるため  
の様々なイベント等、やらなければならな  
いことが余りにも多いのです。

また、大学生になるための「導入演習」

という授業があることに驚きましたが、こ  
れは仙台大学に限ったことではありません  
でした。

進学率50%を超えたときから、大学は  
「ユニバーサル型」の段階に入り、研究機能  
は大学院に集約、大学の役割は多様な学  
生に産業社会に適応できるような幅広い  
教養を身につけさせて送り出すことになっ  
たようです。

スポーツ好きな学生と毎日を過ごし若  
返ったようにも感じますが、自分の役割を  
果たせるのか、本当にこれでよかったのか分  
からないまま、片道一時間の車通勤の毎日  
です。

## 第三十四回在仙同窓会総会開催

第三十四回佐沼高等学校在仙同窓会

総会は、二十八回生が当番幹事を務め、  
平成二十九年九月九日(土)午後四時か  
ら、青葉区の「パレス宮城野」において開催  
されました。

総会には、来賓として母校の小野寺校  
長、本部同窓会氏家会長、本部同窓会熊  
谷事務局長、同片平先生の出席を頂きま  
した。議事進行は高橋孝昌在仙同窓会会  
長の挨拶から始まり、各議案についても原  
案の通り承認され、役員改選では、第六代  
会長に羽生正弘氏、副会長には五十嵐信

氏が選出され、常任幹事や監事の改選も  
承認されました。

また、記念講演では、ウイル動物病院グ  
ループ代表取締役千葉剛氏(二十八回生)  
による「獣医の昨今」と題する講演が行わ  
れました。

百八名が出席して、懇親会はそれぞれの  
テーブルで、絆を確かめあいながら年代を  
超えて笑顔の花が咲いていました。

(広報誌委員会)



力行



笑顔の再会、尽きぬ話題  
盛り上がった第34回総会



# 本部同窓会氏家会長との懇親ゴルフ会に在仙同窓会から八人参加

春と秋の年2回開催している在仙同窓会ゴルフ愛好会のコンペは、会員の日程都合で今年の春は残念ながら開催できませんでした。

昨年七月二十五日、「本部同窓会氏家新会長を囲む懇親ゴルフ会」が花の杜ゴルフクラブで開催され、在仙同窓会からは高橋会長、大畑副会長、羽生副会長、鮎名副会長始め八人が参加しました。

総勢十九人の懇親ゴルフ会はダブルペリア方式で実施、二十四回生の佐々木信行さんがグロス74、ネット70.4の好スコアで優勝しました。準優勝は事務局の岡本智悦さん(三十回生)がグロス83、ネット71のスコア。氏家会長は、グロス77、ネット74.6でした。

本部同窓会と在仙同窓会の懇親ゴルフコンペは、『佐沼高校同窓会懇親ゴルフコンペ(仮称)』として、世代間の交流と親睦・融和を図る目的で、県内のオール同窓生が参加できる内容にして今年九月十一日(火)に開催されます。場所は杜の都ゴルフ倶楽部(大和町)、会費は三千円。プレー費別。百人規模の大会になるよう発起人が参加者を募っています。在仙同窓会会員で参加希望の方は、事務局の岡本までご連絡を。



写真 氏家新会長を囲む懇親ゴルフ会  
(花の杜ゴルフクラブ)

## ◆総会開催のお知らせ◆

第三十五回佐沼高校在仙同窓会の総会・懇親会は平成三十年九月八日(土)午後四時より、青葉区上杉パレス宮城野において開催されます。

今年の記念講演は、「邂逅の森」で直木賞を受賞された作家の熊谷達也さん(二十九回生)に引き受けていただきました。どうぞお楽しみに。総会に多数の同窓生のご参加をお待ちしております。

※総会開催のご案内をお送りしておりますので、「返信ハガキ」を必ず投函してください。返信ハガキの戻りにより、会員皆様の住所等の維持管理が図られます。ご協力をお願いします。

## ◆年会費のご入金をお願いします◆

在仙同窓会の活動は、在仙同窓生の年会費で運営しています。皆さんへの総会案内状の制作と郵送、会報誌「ひろがり」の制作と印刷、母校への寄付金、その他用紙文具通信費などを年会費から支出しています。

一人二千元の年会費を、会運営のためにご理解いただき、ご負担をお願いします。

## ◆情報をお待ちしています◆

お知り合いの同窓生の活動や、活躍している情報(同期会、趣味、サークル、イベント、著作等の活動等)がありましたら、ぜひ事務局へご連絡をお願いします。在仙同窓会事務局/㈱ホットハウス内(担当・岡本) ☎(215) 7787

## ◆編集後記

千葉由香さんの「現在に生きる私たちと地続きです」という言葉が、胸に残っている。渡邊大先輩からは、資料的にも価値の高い寄稿を頂いた。「あの時代」も、まさに「私たちと地続き」。今回も同窓の皆さんに登場していただき、改めて「つながり」を感じた。ここから、『ひろがり』にしたい。

編集委員長(二十五回生) 佐藤新光

## HOT HOUSE ホットハウス

住み替えて始まる素敵生活！  
不動産のことならホットハウスへ！

代表取締役 日下 敦 (高第30回生)

仙台市青葉区本町1丁目5-131  
Tel 022 (215) 7787

## 株式会社大成ハウジング

代表取締役 佐々木 良泰  
(高第三十一回生)

仙台市若林区荒井五丁目十九番地の四  
☎022 (287) 3326

## ゆうファミリークリニック

地域の方々、  
リウマチ患者さんのために

院長 高橋 裕一  
(高第三十回生)  
宮城県宮城郡利府町利府字新館二一五  
☎022 (766) 4141



おかげさまで40周年

株式会社 日専連ライフサービス

仙台市青葉区中央一・三・一 アエル九階  
Tel 022・267・9277